

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

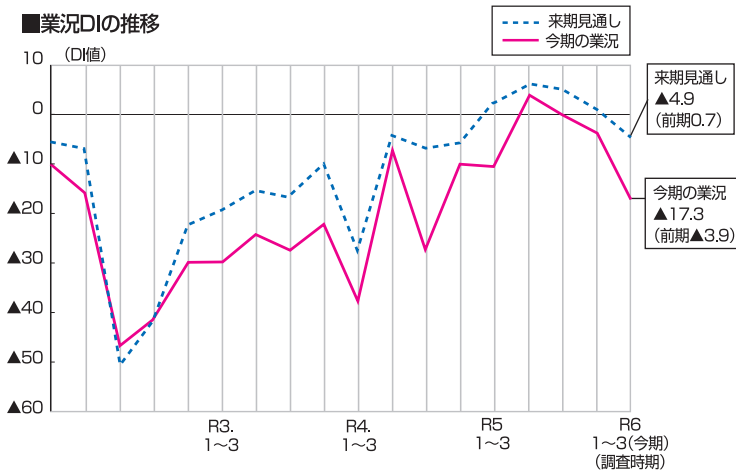
記号の見方

DI値	▲25P以下	▲25~10P未満	▲10~10P未満	10~25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↘	↘	→	↗	↗

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間 令和6年1~3月
回答企業数 152社

■業況DIの推移



■産業別DI値表

業況	全産業平均	前期	今期	増減	来期見通し	
		[R5.10~12] (A)	[R6.1~3] (B)	(B)-(A)	[R6.4~6]	
業況	全産業平均	▲3.9	▲17.3	▲13.4	▲4.9	→
	製造業	▲7.9	▲22.2	▲14.3	▲2.9	→
	建設業	0.0	▲26.1	▲26.1	▲23.8	↘
	卸売業	▲8.0	▲39.3	▲31.3	7.1	→
	小売業	0.0	0.0	0.0	▲3.4	→
	サービス業	▲2.9	▲2.9	0.0	▲6.3	→
売上額	全産業平均	2.6	▲7.9	▲10.5	▲0.7	→
	製造業	0.0	▲13.9	▲13.9	5.7	→
	建設業	10.7	▲34.8	▲45.5	▲39.1	↘
	卸売業	19.2	▲21.4	▲40.6	17.9	↗
	小売業	0.0	34.5	34.5	13.8	↗
	サービス業	▲11.4	▲8.6	2.8	▲8.6	→
資金繰り	全産業平均	▲12.4	▲12.8	▲0.4	▲12.8	↘
	製造業	▲10.8	▲17.6	▲6.8	▲17.1	↘
	建設業	▲14.3	▲13.0	1.3	▲30.4	↘
	卸売業	▲7.7	▲14.3	▲6.6	7.1	→
	小売業	▲14.8	▲7.1	7.7	▲17.9	↘
	サービス業	▲14.3	▲11.4	2.9	▲8.6	→
採算	全産業平均	▲3.3	▲11.3	▲8.0	▲8.1	→
	製造業	▲13.2	▲19.4	▲6.2	▲8.3	→
	建設業	▲3.6	▲21.7	▲18.1	▲30.4	↘
	卸売業	0.0	▲32.1	▲32.1	▲7.1	→
	小売業	3.8	20.7	16.9	13.8	↗
	サービス業	0.0	▲5.7	▲5.7	▲12.1	↘

業況は前期から悪化。来期見通しにも回復の兆しは見られず。

【今期(令和6年1~3月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲17.3 (前期比マイナス13.4ポイント)と前期から悪化。産業別では製造業、建設業、卸売業が大幅に落ち込み、小売業とサービス業がほぼ横ばいとなっている。

【来期(令和6年4~6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲4.9 (前期時の来期見通し0.7からマイナス5.6ポイント)と落ち込んだ。産業別では卸売業を除く全産業で落ち込みが見られた。

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲7.9 (前期比マイナス10.5ポイント)となり、産業別では小売業が34.5 (前期比プラス34.5ポイント)と大きく改善した。

全産業の資金繰りDI値は、▲12.8 (前期比マイナス0.4ポイント)となり、産業別では小売業、サービス業、建設業が改善した。

全産業の採算DI値は、▲11.3 (前期比マイナス8.0ポイント)と悪化。産業別では小売業が大きく改善する一方、卸売業が大きく悪化している。

【回答企業のコメント】
・ 節句関連製品の売上が減少した。コロナ禍が原因となり廃業した取引先も少なくない(製造業)

・ 売上は増えたが、仕入単価をはじめ各経費の高騰が原因で利益増に繋がらない(小売業)

・ コロナ禍で減ってしまったサービス利用の需要回復へ向け様々なキャンペーンの展開を検討している(サービス業)